

追記・修正箇所

~~削除箇所~~

# 岡崎地域活性化ビジョン（案）

## ~~中間まとめ~~



岡崎地域活性化ビジョン検討委員会

# ビジョン策定の背景と目的

明治維新後、東京遷都により衰退していった京都を活性化するために、京都は近代化や産業の振興に取り組んだ。琵琶湖疏水の建設や平安遷都1100年記念事業として開催された第4回内国勧業博覧会はまさに京都の近代化を牽引する事業であり、岡崎地域では平安神宮の創建や多数のパビリオンが建設された。博覧会の後も各時代を先導する多くの文化・交流施設が整備され、京都の発展に寄与するとともに、国内でも類のない文化・交流ゾーンが形成されてきた。

今日、右肩上がりの経済成長は終わり、文化、心の豊かさ、生態系との調和、人と人との交流を大切に、都市の創造性を高めることが21世紀の大きなテーマである。

こうした日本における文化力の発信は、京都の役割であり、中でも文化・環境・景観といった優れたポテンシャルを有し、京都の発展を牽引した「岡崎」が積極的に果たさなければならない。

この度の取組はこうした岡崎のポテンシャルの更なる活用と岡崎地域で展開されつつある関連施策の融合により岡崎地域の活性化の羅針盤となる「ビジョン」を策定し、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」「更なる賑わいの創出」を図っていこうとするものである。

「岡崎」が多くの人々を引き付け、魅了する国際交流・文化観光拠点として更に発展し、京都の魅力、日本の魅力を国内外に広くアピールできる地域となることを願って止まない。

## 検討の経過

市民、有識者、地元、各界関係者など19名の委員で構成される岡崎地域活性化ビジョン検討委員会を設置し、ビジョン検討を進めている。

検討に当たっては、岡崎地域の多様なポテンシャルを踏まえ、地域の個性や役割、発展の方向性などを議論し、50年後100年後を見据えた長期的な見地に立った将来像を設定するとともに、その実現のための方策については、概ね今後10年程度を視野に入れて検討をすることにした。

### 岡崎地域活性化ビジョン検討委員会

第1回検討委員会  
(平成22年7月13日)



岡崎地域のポテンシャルや課題を共有し、10年後の将来像や実現方策について意見交換を行った。

第2回検討委員会  
(平成22年8月18日)



京都市プロジェクトチームでの検討事項や国への特区提案等を報告し、ビジョンで目指す方向、岡崎にふさわしい賑わいの在り方等について議論した。

第3回検討委員会  
(平成22年12月13日)



ビジョン(案)中間まとめについて、協議した。

作業部会(9月～11月、4回開催)  
「ビジョン(案)中間まとめ」「案」の  
作成作業を行った。

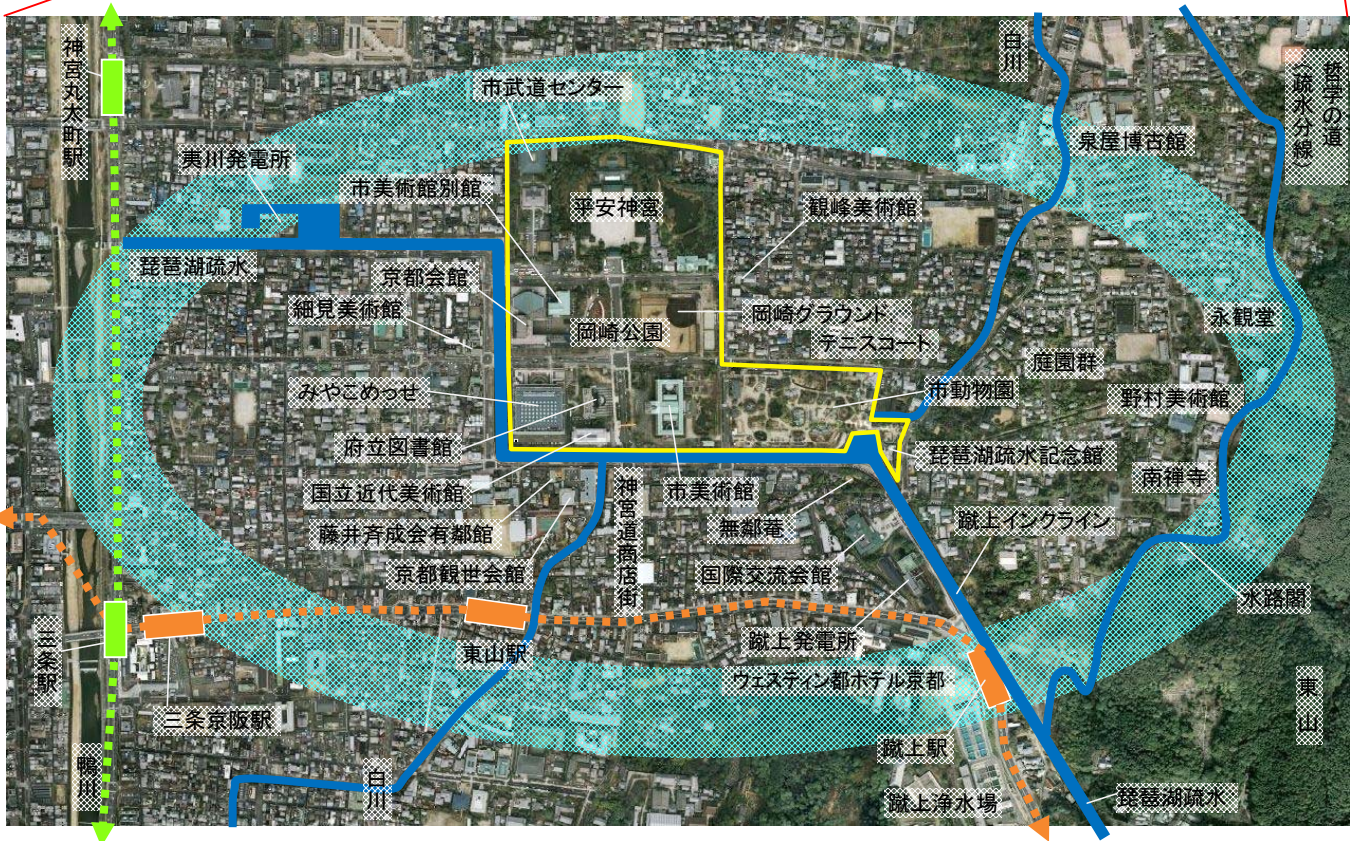
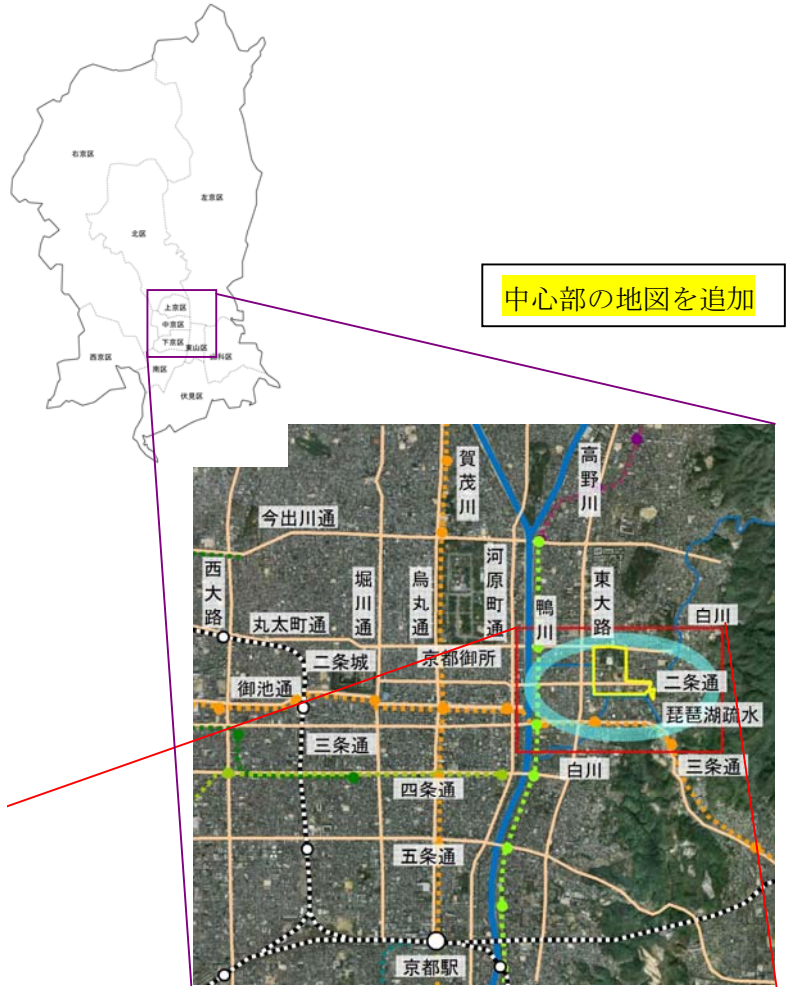


# 対象エリア

平安遷都1100年を記念して建設された平安神宮と内国勲業博覧会の会場跡地に整備された文化・交流施設の集積は、京都の近代化を先導した場所であり施設機能や集客面において岡崎のコアゾーンと言える。

周辺には民間の美術館・博物館、有名な寺院・神社が集積し、更に近代化を牽引したもうひとつの象徴である琵琶湖疏水と疏水の水を活用した庭園群が優れた水辺の景観を醸し出している。

本ビジョンは、岡崎のコアゾーンと周辺に集積する多彩な地域資源を対象に、その結びつきを強めることで、京都を牽引する更なる魅力的な地域を目指し検討を行ったものである。



凡例	
	検討対象エリア
	岡崎のコアゾーン
	琵琶湖疏水, 白川
	市営地下鉄東西線
	京阪電鉄



# 岡崎地域のポテンシャルと課題

## (1) 岡崎地域のポテンシャル

### ①近代化の歴史と革新性

#### ◆ 京都の近代化を牽引した進取の気風

- 明治 28 年 (1895 年), 工業都市としての発展や京都の圧倒的な文化度を内外にアピールする一大事業として, 現在の岡崎公園付近で, **第 4 回内国勸業博覧会**と**平安遷都 1100 年紀年祭**が開催され, 平安神宮が創建された。(紀年祭の記念行事として時代行列が企画され, 以後, 毎年“時代祭”として開催されるようになった。)
- 幕末の騒乱や東京遷都により京都市が衰微するなか, 殖産興業策の一つとして整備された琵琶湖疏水は, 水運や灌漑用水としての利用のほか, **国内初の売電用水力発電所**の建設へと結びついた。
- 供給された**水や電力**は, 水道用, 工業用, 防火用など多方面に利用され, 京都の近代化の礎となった。琵琶湖疏水及び蹴上・夷川の両発電所は, 京都の重要な都市基盤として, 現在も, 市民の安心・安全な暮らしと都市機能を支え続けている。



平安神宮地鎮祭の余興 (明治 26 年 [1893])



夷川発電所

#### ◆ 近代化遺産

- 周囲の自然景観と調和した**琵琶湖疏水とインクライン** (南禅寺境内の水路閣も疏水施設)
- 東山山麓では疏水を契機に風致保全とあわせた別荘地開発が進み, 疏水の水を引き入れた**庭園群**を形成している。(近代日本庭園の先駆者とされる作庭家小川治兵衛が手がけた庭も多い。)
- 博覧会跡地には岡崎公園が開設され, その後も様々な博覧会の会場となり, 公会堂や美術館といった様々な文化施設が順次建設され, 一帯に**近代建築物群**を形成した。



インクライン (明治期)



無鄰菴庭園

## ②優れた都市景観・環境

### ◆ 優れたデザインの近代建築物群

- 岡崎地域には、様々な文化・交流施設が立地し、地域のシンボリックな景観や街並みのアクセントを作っている。
- 岡崎地域の景観は、文化都市のイメージにふさわしい景観が創出され、空間スケールの大きさも国際都市に似つかわしい水準に到達している。これが評価され、国土交通省の「都市景観 100 選」に選ばれている。



優れたデザインの近代建築物が集積するエリアの鳥瞰写真（平成 21 年撮影）

### ◆ 水と緑が共生する創造的で豊かなオープンスペース

- 都心から少し離れた地域であるので、広々とした創造的な空間が形成されてきている。
- 地域には水と緑に彩られた豊かなオープンスペースや庭園群が存在する。
- **疏水**沿いは、建築物や桜、緑と一体となった優れた景観をつくり上げ、岡崎地域の特徴的なイメージを形成している。

### ◆ 東山山麓に連なるスケールの大きな借景的眺望

- 各施設の敷地内には十分な**オープンスペース**が確保され、東山の緑の**眺望**を確保している。
- 建物が地域内の豊かな緑とともに稜線に溶け込み、東山を**借景**とした京都の風土に馴染む景観を形成している。



京都会館中庭



東山を借景とした疏水と十石舟



### ③年間 500 万人を超える人々の交流の場

#### ◆ 集積する文化・交流・集客施設

- 明治期の内国勧業博覧会の後、一帯に多彩な**公設の文化・産業・スポーツ・交流施設**が建設され、文化・交流ゾーンを形成してきた。

< 京都市の施設 >

国際交流会館，美術館，動物園，京都会館，武道センター・武徳殿，岡崎グラウンド・テニスコート，勧業館みやこめっせ，琵琶湖疏水記念館

< 国，府の施設 >

京都国立近代美術館，京都府立図書館



国際交流会館



京都市美術館



京都会館



京都市勧業館 みやこめっせ



京都国立近代美術館



京都府立図書館

- また、岡崎公園周辺には、個性的な**民間の美術館・博物館等**も立地する。

観峰美術館，京都観世会館，泉屋博古館，野村美術館，藤井齊成会有鄰館，細見美術館

## ◆ 豊富な文化財や有名な寺院・神社

- 岡崎周辺には、国宝や重要文化財をはじめ、国、府、市の指定、登録による様々な文化財、名勝が集積する。
- 平安神宮や南禅寺、禅林寺（永観堂）等の有名な寺院・神社もあり、参拝や観光の名所となっている。
- 寺院・神社をはじめ多くの文化資源が集積した祈りや癒しなどの精神文化の拠点となっている。

## ◆ ハレ舞台での様々な祭り・イベント・催し

- 時代祭や新しいイベントである京都学生祭典のほか、各施設ではコンサートや展覧会など、様々な催しが行われている。十石舟めぐりや薪能など、豊かな地域資源を活かした催しは人気が高い。



平安神宮・応天門



## (2) 岡崎地域の課題

- ◆ 情報発信が弱く、「岡崎」の知名度が低い。
- ◆ 貴重な文化遺産の継承と活用を両立させる仕組みが不十分。
- ◆ 各施設の老朽化、機能強化への対応が必要。
- ◆ 施設間連携が弱い。
- ◆ 周辺地域からの人の流れや公共交通によるアクセスが弱い。
- ◆ 優れた景観の継承と文化・交流ゾーンとしての機能強化のための都市計画のルールが必要。
- ◆ 地域に人が憩い、交流し、滞留する機能が不足している。
- ◆ 夜が寂しい。
- ◆ 環境モデル都市を牽引する進取の取組が必要。
- ◆ 来訪者を総合的に案内する環境が不十分。

# 岡崎地域の将来像

岡崎地域の多様なポテンシャルを踏まえ、地域の個性や役割、発展の方向性などを議論し、50年後100年後を見据えた長期的な見地に立った5つの将来像を設定した。

多面的かつ普遍的な岡崎の姿を将来像として設定しており、それぞれが独立したものでも、また上位・下位という性格のものでもなく、相互に重なり合い、関連しながら発展するイメージを表している。

岡崎地域の将来像の実現に向けては、岡崎のポテンシャルの更なる活用を図るための地域連携や取組の融合はもとより、多くの叡智や資金が不可欠であり、地域の施設や団体・事業者・行政、市民や企業など幅広い主体が参加する取組として展開させていかなければならない。

- 進取の気風を受継ぎ、未来に挑む  
人材を育む<sup>みやこ まな や</sup>京の学び舎
- 伝統産業から最先端産業まで  
世界に発信する未来の博覧会エリア

新たな歴史への  
**挑戦**

創造する  
**文化・芸術**  
の都

人々が集い  
ほんものに  
「世界の**京都**・

- オペラ、バレエ、演劇、能・狂言...  
世界の一流と京都のほんものに酔う舞台芸術の本場
- 岡崎ミュージアム群をフルに活かした  
本物のアートに出会えるまち
- 世界から芸術を夢見る若者が集まるエリア

継承する  
**山紫水明**の杜

琵琶湖疏水、東山、寺院・神社、庭園群、桜・ケヤキ並木...

- 水と緑に抱かれた世界に誇る京都の宝
- 先人が築いた遺産、誇りに触れる癒しとやすらぎの杜
- 未来への持続性と自然との共生を実感・実践する環境未来都市





疏水辺のイメージ

交流する  
**観光・MICE**

**拠点**

四季折々の景色，インクライン，疏水水上バス，一流の舞台芸術，洒落たカフェ・レストラン...

- 素晴らしき文化，歴史，人との出会い，京都発見への入口
- 多彩な資源集積を活かした岡崎ならではのニューツーリズム，MICE
- 世界の人々との交流の場

出会う  
岡崎」

歩いて楽しい体験と賑わいの

**祝祭と賑わい**  
の空間

多彩なイベント，ストリートパフォーマンス，屋外アート...

- オープンスペースで連なるハレ舞台のネットワーク
- 市民が主役となる人生のハレ舞台，京都随一の祝祭空間
- ~~歩いて楽しい賑わいあられる岡崎の一日~~



歩いて楽しい神宮道のイメージ

# 実現のための7つの方策

将来像を実現するため、今後概ね10年程度を視野に入れ、様々な主体が協力して取り組む7つの方策を掲げた。

## < 方 策 >

## < 目指すこと >

① 岡崎のエリアブランドを構築し、世界に向けて魅力・情報を発信

◆ 知名度、集客力が向上し、世界の人々に岡崎の魅力が知られている

② 山紫水明の岡崎の魅力を創出する琵琶湖疏水と近代化遺産の保存と活用

◆ 貴重な文化遺産が将来へしっかり継承・活用され、多くの人々が水辺の空間に親しんでいる

③ 文化芸術、MICE\*拠点としての機能強化

◆ 各施設の機能が向上し、より多くの「ほんもの（一流）」のコンテンツが繰り広げられている

④ 地域資源を結び、岡崎の総合的な魅力を高める、保全・創造の景観・まちづくり

◆ 施設間連携が進み、国際的な MICE が開催されるなど、様々な人材・企業・団体の交流、情報発信の場となっている

⑤ 多くの人々が訪れたいくなる新たな賑わい創出

◆ 優れた景観を保全・継承しつつ、回遊・滞留しやすいまちとして、地域全体がより魅力的になっている

⑥ 環境モデル都市を牽引する進取の取組の実践

◆ 岡崎にふさわしい新たな賑わいが生まれ、地域全体の活力が向上し、楽しくワクワクする空間となっている

⑦ 集客・国際ツーリズム拠点としての機能強化

◆ 環境モデル都市・京都の顔となり、身近な環境マネジメントを体感できる地域になっている

◆ 誰もが安心し、分かりやすく観光できる地域になっている

将来像の実現へ

\*MICE: Meeting (企業のミーティング等), Incentive (報奨旅行等), Convention (国際会議, 学会等), Event/Exhibition (イベント, 見本市等) の総称。経済波及効果が大きく、京都ブランドの向上や観光振興上、MICE 誘致は重要な政策。



## ① 岡崎のエリアブランドを構築し、世界に向けて魅力・情報を発信

優れた地域資源や地域の取組を繋ぎ、魅力を向上させることにより岡崎のエリアブランドを構築するとともに、プロモーションの推進などにより岡崎地域の知名度や集客力の向上を図る。

### ◆ 岡崎の知名度向上

公共交通機関の駅・バス停名等に「岡崎」を付け、公共交通機関によるアクセスルート積極的に発信するなど、「岡崎」の知名度向上と公共交通機関の利用を積極的にPRする。

### ◆ ICTを活用した情報発信、新たなツールの作成

岡崎に集積する施設情報や魅力情報を総合的に発信する「ポータルサイト」の開設や、施設・自然・見所などの地域資源情報を網羅した「エリアマップ」~~を作成する。~~の作成など、ICTをはじめ様々な媒体を活用した地域情報の発信・充実を図る。

### ◆ 地域情報を繋ぎ、融合させる取組

岡崎で展開される多彩な催し情報を集約し、日替わり情報を発信できる「イベントカレンダー」の開設や、地域資源・見所をつないだ散策「モデルルート」の開拓~~に取り組む。~~、~~共~~通利用パスの発行など岡崎の魅力を繋ぎ・楽しめる取組を推進する。

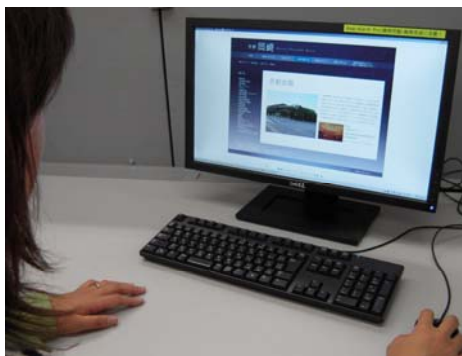
また、「岡崎の日」「岡崎の週」など、~~地域全体が連携した~~来訪者向けサービスやイベントを集中実施~~する。~~し、~~「岡崎」の知名度を向上させる。~~

### ◆ 歴史を掘り下げ情報発信

高さ80mを超えたとされる法勝寺の八角九重の塔をはじめ栄華を極めた平安時代末期の岡崎、国内最大級の土木事業として京都に貴重な水をもたらした琵琶湖疏水事業をはじめとする近代化を牽引した岡崎など、歴史情報を掘り下げ、岡崎の物語として発信する。

### ◆ 岡崎ブランドの構築と発信

ポテンシャル、魅力づくりを進める岡崎のイメージをキャッチコピーやプロモーションなどを通して戦略的に発信する。



ポータルサイトによる岡崎地域情報の発信

※ ICT : Information and Communication Technology。情報や通信に関する技術の総称。ITとほぼ同じ意味。最近では、国際的に広く使われるICTが用いられることが増えている。

## ② 山紫水明の岡崎の魅力を創出する琵琶湖疏水と近代化遺産の保存と活用

琵琶湖疏水や庭園群については、文化的景観としての保全・修景を図りつつ、回遊や散策、MICE戦略への活用など、来訪者が岡崎の水辺の景観をじっくりと楽しめる環境づくりを進める。

### ◆ 重要文化的景観制度を活用した水辺遺産の将来への継承

琵琶湖疏水や庭園群等水辺の近代遺産の保全・修景を図り将来へ継承するため、世界遺産登録も視野に入れ、文化財保護法に基づく重要文化的景観選定に向けた取組などを推進する。

~~文化財保護法に基づく重要文化的景観選定に向けた取組を推進し、琵琶湖疏水や庭園群等水辺の近代遺産の保全・修景を図り、将来へ継承する。~~

### ◆ 琵琶湖疏水の修景と活用

来訪者が水辺空間を楽しめる散策路や賑わいスポットなど疏水の修景と魅力向上に資する親水空間を整備する。

桜の開花時期に行っている疏水周遊運航期間や運航時間を拡大するなど、船で楽しめる賑わい環境づくりを推進する。

### ◆ 東山山麓庭園群の将来への継承と活用

植治の庭をはじめとする疏水の水を引き入れた優れた庭園群を保全、将来へ継承するとともに、公開の機会を増やすなど国内外の方々にその魅力を伝えていく。また、これらの庭園群をミュージアム、ギャラリーやMICE関連施設（宿泊、パーティー、会合等）などとして新たな活用を図りながら保全・継承できる仕組みについても所有者との連携の下で検討する。



疏水から東山を望む



疏水沿いの親水空間のイメージ



### ③ 文化芸術， MICE 拠点としての機能強化

岡崎ならではの多彩な文化・交流施設の集積を活かし，質の高い文化芸術のコンテンツが創造・発信される世界に冠たる文化・交流拠点としての機能強化と，MICE 拠点としての機能強化を図る。

#### ◆ 文化・交流拠点としての機能強化

- ・「京都市動物園」は，近くて楽しい都市型動物園として，園内のゾーン分けや図書館，カフェ・レストランなどの施設充実を図る再整備事業に平成21年度から7年計画で取り組む。
- ・「京都会館」は，岡崎地域活性化の核として，世界一流のオペラの開催が可能となる舞台機能の強化をはじめ，会議棟や中庭，二条通沿いをお洒落なカフェ・レストランなど賑わい空間とするための再整備を進める。



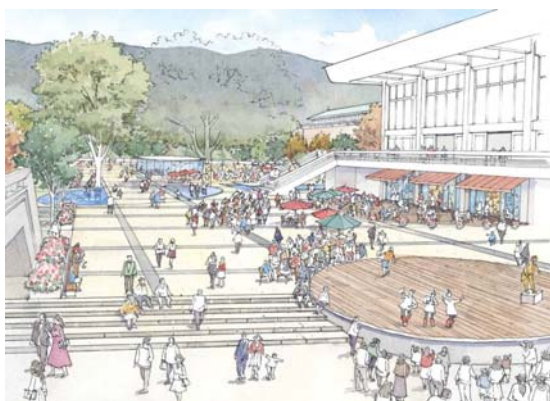
動物園の再整備イメージ

- ・「京都市美術館」では，集客力のある企画展が誘致できる美術館機能の向上や，市民や芸術家が憩い，交流できる空間機能の強化を図る。（ミュージアムカフェや疏水沿いの親水空間・交流スペース等）
- ・「みやこめっせ」では国際的なイベント・展示会の誘致促進や，**伝統産業ふれあい館の積極的なPR・活用**，二条通沿いのオープンスペース活用などによる賑わい空間の創出に取り組む。
- ・地域連携と仕組みの構築の中で，官民の文化芸術活動を総合的に発信し，鑑賞・体験の機会を提供していく。また公共空間や官民施設を創作活動や展示スペースとして活用する。

#### ◆ MICE 拠点としての機能強化

国際的な学会や展示会，企業研修・ミーティング，それらに伴うパーティなどMICEの様々なニーズに応じていくため，ハード・ソフト両面の機能の強化を図る。

- ・「京都会館再整備」におけるMICE機能の強化
- ・「京都会館」「みやこめっせ」「美術館」「**国際交流会館**」などの**多様な施設集積**を活かし，総合的に活用するための企画や調整・相談を行い，質の高いMICEの開催を実現するためのコーディネート機能の創設



京都会館の再整備イメージ（中庭空間）



京都会館

#### ④ 地域資源を結び、岡崎の総合的な魅力を高める、保全・創造の 景観・まちづくり

東山を借景とした広々とした空間を持つ岡崎地域の優れた都市景観・環境をの継承としつつ、地域の魅力を高める施設の整備などを可能とする都市計画の変更をはじめ、地域資源を結び、魅力的な都市空間づくりに向けたエリアデザインの検討を進める。

活性化を積極的に推進するため、関連法の規制緩和や税制・財政の支援など、国の総合特区制度の活用を目指す。

##### ◆ 都市計画の変更

優れた都市景観を構成する近代建築物の意匠や構造を、や広々とした空間的魅力の将来への継承と~~し~~、施設機能の強化や賑わい施設の導入が可能となるよう、ビジョン実現に必要な都市計画の変更を行う。

##### ◆ 近代建築物や街路の保全・修景

歴史まちづくり法の重点区域指定を目指し、国補助制度を活用した建築物や街路の保全・修景を行う。

##### ◆ 地域へのアクセスと地域モビリティの向上

岡崎地域の活性化を図る観点から地下鉄東西線の「東山」「蹴上」両駅からのアクセス環境の向上や来訪者の利便性に配慮したバス路線やバス停のあり方を検討する。

また、環境負荷の少ない地域モビリティの向上に向けた検討を行う。普及を図る視点から、EV（電気自動車）等の活用について検討を行う。

##### ◆ 道路機能・デザインの向上、ユニバーサルデザインの推進

来訪者にとって魅力的で回遊しやすい地域づくりを進める観点から、各施設や資源を繋ぐ道路機能やデザインのあり方について検討する。また、公園整備や施設整備などを通してあらゆる人が安心して利用できるユニバーサルデザインを推進する。

##### ◆ 魅力あふれる公園づくり

美術館南側から鴨川に至る疏水及び疏水沿いの緑道を公園区域に編入し、インクラインから鴨川に至る桜並木の道を、散策やジョギング・回遊する魅力あふれる公園として一体化を図る。

##### ◆ 総合特区制度の活用

各施設の機能強化のための整備・改修や賑わい施設の誘致、文化財・近代化遺産の保存・活用などの岡崎地域の活性化を推進するため、関連法の規制緩和、各事業への財政支援、活性化に参加する民間事業者への税制支援など、国の総合特区制度の活用を目指す。



## ⑤ 多くの人々が訪れたいくなる新たな賑わい創出

道路や公園、施設などのオープンスペースを繋いで一体的に活用し、市民、地域の人々、来訪者に親しまれる**歩いて楽しい**岡崎地域にふさわしい憩いの空間と賑わいの創出を図る。新たに、美味しい食事を楽しめる時間や夜の賑わいの演出に取り組む。

### ◆ 夜の賑わい創出

夜間営業を行っていない美術館や動物園、民間施設などでナイトミュージアム、ナイトパークの展開を図る。あわせて、ライトアップやイルミネーションなど「光」による夜の賑わい創出、**夜の街並みを演出する街路灯のデザイン検討**などに取り組む。

### ◆ **歩いて楽しい岡崎**、神宮道の歩行者専用化・プロムナード化

神宮道の歩行者専用化により、歩いて楽しい岡崎の実現を目指す。沿道の公園区域と一体となった岡崎のシンボルとなるプロムナード整備を図る。また、屋外アートの設置やストリートパフォーマンス、多彩なイベントが展開できるオープンな賑わい空間の創出を図る。

### ◆ 岡崎グラウンド空間のあり方検討

野球場とテニスコートとして利用されている現状の岡崎グラウンドは、岡崎地域の核として市民、来訪者がより幅広く活用・交流できる空間とする方向で検討する。緑豊かな空間の中で多彩なイベントや文化芸術の発信、カフェ・レストラン・ショップなど賑わいと創造的な機能を創出する。災害時の広域避難場所としての機能を引き続き確保する。

### ◆ 新たな憩いの空間と賑わい創出

岡崎地域に集積する美術館や博物館、有名な寺院・神社等に対して、ビジョンに掲げる将来像を実現するため、岡崎地域にふさわしい新たな憩い空間、賑わいの創出に向けた主体的な事業の企画を呼び掛けると同時に、各事業推進のための様々な支援を行う。



京都市美術館のライトアップ



二条通り沿いの賑わい創出イメージ

幅広い多くの意見が寄せられたので  
第4回検討委員会にて重点協議

## ⑥ 環境モデル都市を牽引する進取の取組の実践

当ビジョンに掲げる様々な方策の推進に当たっては、環境負荷の低減や生態系への配慮、再生可能エネルギーの活用や緑豊かな環境の保全など、環境モデル都市を牽引する取組を実践し、広く発信する。

### ◆ 再生可能エネルギーの活用・省エネルギー化の促進

環境モデル都市を牽引する地域として、太陽光発電や水力発電などの再生可能エネルギーの地産地消活用やを指すとともに、施設整備などに合わせた省エネルギー化を促進するとともに、環境教育の場として積極的な情報発信・活用を図る。

### ◆ 緑のマネジメント

桜をはじめ、地域の魅力の重要な要素である緑を総合的にマネジメントし、良好な緑の環境を保全・創出する仕組みを検討する。



疏水沿いの桜

### ◆ 水辺・山辺の生態系の保全、情報発信

地域に生息する希少動植物やその生息地としての生態系の保全の取組を情報発信し、環境教育や生態系保全への協力へと結び付ける。

## ⑦ 集客・国際ツーリズム拠点としての機能強化

わかりやすい観光案内を総合的に行い、国内外からの来訪者が気軽に回遊し、岡崎地域の魅力を享受できる環境づくりを進める。

### ◆ 岡崎地域の総合的な観光案内

岡崎の施設案内やイベント情報を総合的に扱う「岡崎コンシェルジュ」の設置に向けて取り組む。また、個人端末や電子看板などICTを活用した情報発信にも取り組む。

### ◆ わかりやすい観光案内表示

来訪者の視点に立った分かりやすい案内標識の設置に向けて取り組む。



# 実現のためのプロセス

岡崎地域の活性化を着実に進めていくためには、施設や関係者の主体的な取組に加え、施設間連携の強化が不可欠である。また、行政と施設関係者に加えて、多くの市民や企業の積極的な参画を得て取組を推進していく必要がある。

関係者が役割分担と合意形成を図りながら地域活性化の取組を進めていく「エリアマネジメント」組織の設立を目指す。

## ◆ 岡崎地域エリアマネジメント組織の設立

地域の施設や事業者間の連携強化、魅力ある事業の企画調整や効果的な情報発信に取り組む組織として、地域の施設や団体、事業者、行政、専門分野のアドバイザー、マネジメントの専門家などで構成するエリアマネジメント組織の設立に取り組む。

様々な取組の主体を支援しながら、事業の連携・融合を図るなどトータルプロデュース機能を持ち、多くの市民や企業などへも広く事業参画を呼びかけていく組織づくりを目指す。できる限り早期に設立し、段階的な充実を図る。

